

2015年度 立命館大学校友会 東日本大震災支援事業  
東北応援ツアー（宮城県コース） レポート  
「現地を訪問して思うこと」

2015年 法学部卒業  
村瀬 宏章

今回の東北応援ツアーで初めて東北を訪れました。これまで、メディアを通して復興の様子を見てきましたが、実際に訪れて現地視察やボランティアガイドの方のお話を伺うことで、メディアを通して感じていたよりも震災が悲惨であり、復興もまだまだ進んでいない地域があると感じました。

1日目には、浴場が合築されている女川駅や最新の施設であり世界最長の石巻魚市場を訪れたことで、過去を取り戻すための復興というイメージから、未来に向けた復興であると感じました。

一方で、2日目に訪れた閑上地区では、まだまだ復興が進んでいない現状がありました。復興が進んでいない中でも、震災を忘れないための取組みや後世に伝えていくための取組みがありました。閑上地区を訪れたことで一からのまちづくりの難しさを感じ、震災・復興の過程を忘れないこと、伝えていくことの必要性を改めて感じました。

この2日間の東北応援ツアーを通して、被災・復興の現状を全然理解していなかった自分に気づきました。周囲の友人や知人にも自分と同じようにメディアを通してしか東北の現状を知らない人がいます。今後、この経験を通して学んだことや感じたことを周囲の人に伝えることで、東北の震災が忘れられてしまわないよう努めていきたいと考えています。